

救護活動 青年会・教友会員らで

直ちに復旧祈願祭も執行 対策本部

十九日午前には第二次救援隊十二人が出発。現地で第一次救援隊と合流し、水六百リットル、毛布百枚、おにぎり千個の救援物資を被害の大きい東灘区の区役所、ならびに日用品等を避難所の須磨区・東須磨小学校、西宮市・西宮市立体育館に搬入した。

またこの日から地方機関の宝塚・芦屋の両市、西宮市・東灘・灘の両区、中央区、長田・須磨の両区にそれぞれ日用品を搬入した。

植村彰本部長は二十三日、第四次（二十三日午前出発、十人および第五次救援隊（二十四日未明出発、十九人）の隊長として神戸市内の被災地に入った。

第四及び五次救援隊は、次

救援隊が続々現地へ

直ちに復旧祈願祭も執行 対策本部

災害救援本部は二十一日午 百四十八着、同下着五十二着
前、第三次救援隊二十八人を 子供用防寒着百五十九着、又

陣頭に立つ津田宮司

長田氏子の三分の二被災

実家からハキの道を、ペット
ボトルの水二十本を、山道を
災者に開放して避難民を受け

置にとどめる。当面、緊急を要し、かつ復旧の可能な箇所を倒壊したので、今後、復興に

宮司のもとへ見舞いの電話があった。宮司が無事であること

建物が損壊したが、本殿・拝殿は倒壊を免れた。昭和三年は古いため倒壊し、職員宿舎は新しく鉄骨が使っていた。

周辺は特に被害が大きく大規模である。長田神社では地震後莫大の火災による多くの家屋が津田宮司の指揮のもと、緊密

③事故の皆無を期する。職理したいという。

いう。

の建築で、柱が大きく丈夫なため、倒壊は免れた。が、瓦は落ち、ビニールシートの根が腐り、昭和の文化

④当直者は臨機の服装で神

処した。三者は一睡もせず、時、関東大震災を経験、昭和連絡や避難、境内の点検など二年の丹後地震は大阪の池田

彦氏は尼崎から単車で救援物資を運んできた。住吉神社の

神門は浮き上がり、すぎ堀に當つたのは分からない。禰宜の宮本芳郎氏は何

だった。しかし、氏子の三分の二が被災しており、今後の課は朝だけに、服装は作業服の上に白い服を着る。月次祭

殿の建物の損壊がどの程度なのか見てもらった。職員らの宿

十日の鳥取地震では震源地にいた。先輩を送り届け、宿舎

咩神社の藤原正克氏は西宮から二十^キの道を自転車で駆け

がずれた。結婚式場の参集殿 津田宮司は所用で大阪・池田の実家へ帰っていたため急

ている。とりあえず同神社名 ように。その他は祭儀部長の

とところで地震が起きた。兵庫県
の豊岡まで歩いた。新婚目

井清明氏は自動車で救護物資を運んできた。その他、東京

なったりしているが、建物は地震後、ある職員は須磨の

境内を被沙者九十餘

てはいけなく、必死で燃

が、それはわづらひてゐる。

泉尾教会 連日の救援活動

は見舞金を贈っている。

川洋一教務二部長、十亀光熙
開拓布教課長が姫路・城南教
会入りし西近畿教務所長、教
区委員、教会連合会長らと今
後の取り組み、対応について
懇談。西近畿教区としては
「復興委員会」（委員長・瀬
崎庫敏姫路東教会長）を設置
した。

また、教監通牒を発して全
国の教会に財的支援、人的支
援、物的支援を呼び掛けてい
る。

井を机などが支え、わずかな
隙間ができて、何とか脱出す
ることができたという。現在
は九州等からボランティアに
来た青年教師らとともに後片
づけをしている。

常盤本教会（神戸市灘区）
は木造の建物が無事に残って
いるが、ゆがみが激しく神前
等をすでに移している。同教
会はちょうど被災地域の中
間地点に当たるため救援物資が
持ち込まれ、ここを拠点に各

常盤木教会(神戸市灘区)

は本造の建物が無事に残っているが、ゆがみが激しく神前等をすでに移している。同教会はちょうど被災地域の間地点に当たるため救援物資が持ち込まれ、ここを拠点に各

九人、東側の尼崎教会（兵庫
県）に三人、淡路島には二人

県に三人、淡路島には二人を派遣し、現地の西近畿教区関係者などと協力して、二十一日までに全ての教会を歩いて被災状況を調査するとともに、災害救助法が適用された九市四町の各災害対策本部に同教団の教会は、神戸市内に三十六、淡路島に七、西宮市に六、尼崎市に七、伊丹市に二、宝塚市に三、芦屋市に二、川西市に二教会など。神戸市灘区には西近畿教務所も置かれている。阪神間、とく

に神戸市内の教会はそれぞれが何らかの被害を受けたように、中でも被害が大きかったのが今のところは御影教会（神戸市東灘区）、北御影教会（神戸市東灘区）、六甲教会（神戸市灘区）、兵庫教会（神戸市東灘区）である。六甲教会は全ての建物が完

よう。ただし中の機器に被害が出ていると推測されるが、職員も各教会への対策に追われ教務所まで手が回らないのが現状のようだ。

西宮市内の教会には大きな被害は無かったようだ。西宮

兵庫県南部地震特報⑤

き倒壊寸前で、他の建物も全

ちに建物が倒壊して下敷きに

った。

近畿の各教務所でも様々な形で救援活動を進めている。とくに中近畿教務所では地震の翌日から毎日、現地へ出向き被災者への救援活動を行っている。地震直後は救援物資として水、おにぎり、カッ

プラザーメン等運び、現在も地元の支援対策室等と連絡を取りながら、不足しているものをその都度ワゴン車やトラックで搬送している。

許可も取り、トラック部隊を編成。青年信徒を中心に、連日、二十四時間態勢で、ピストン輸送を始めた。

二十二日からは、豚汁やうどんなどの温かい食物を配給するためにプロパン厨房設備

人に対しても、英字新聞等に告知を出して日本人被災者同様、教会内の宿泊施設の提供などを行なっている。外国人は頼る知人も少なく、また同教会では国際的な活動を行なってきたためという。

外国人のため
英字新聞にも告知出す

ただし、周辺地域は被害の
大きかった所だけに隣の民家
も倒壊して同教会の建物にも

たれかかっている。この民家の一階にいた高校生は下敷きとなったが、幸いその建物の

窓と教会の窓がうまく合わり、その中から引き上げられて助かったという。

いる。

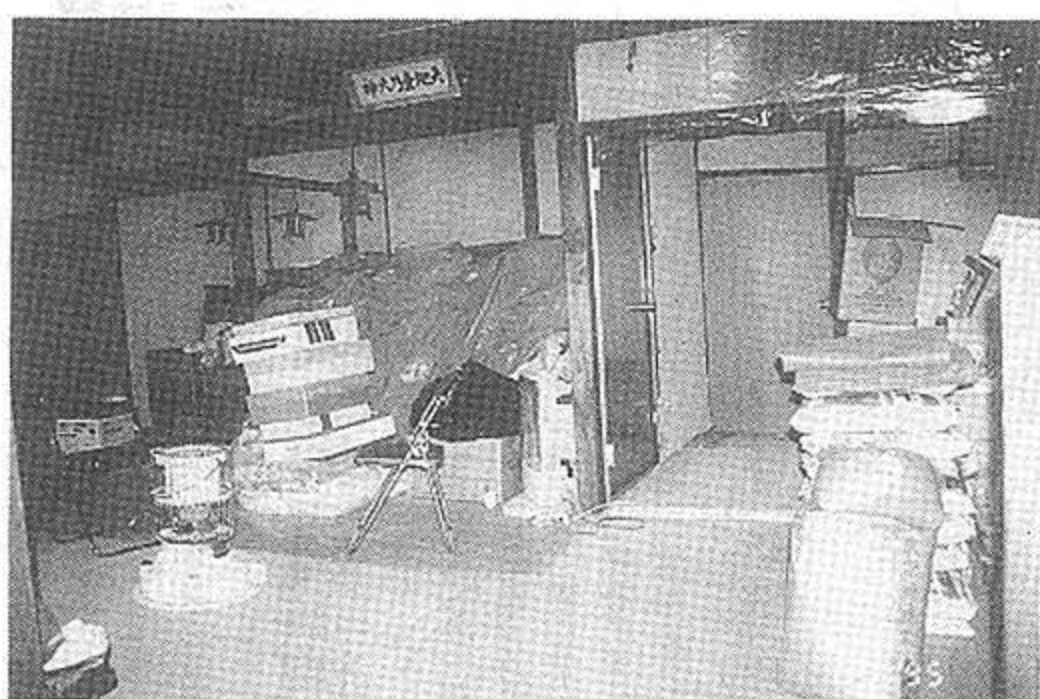
A black and white photograph showing a large crowd of people gathered in front of a modern, multi-story building. The crowd is dense, with many people standing in lines or groups. A car is visible in the foreground on the left. The building has a flat roof and large windows. A tall, thin pole stands in the middle of the crowd.

西宮市甲子園の春風公民館では豚汁の炊き出しを行ない、長蛇の列ができた

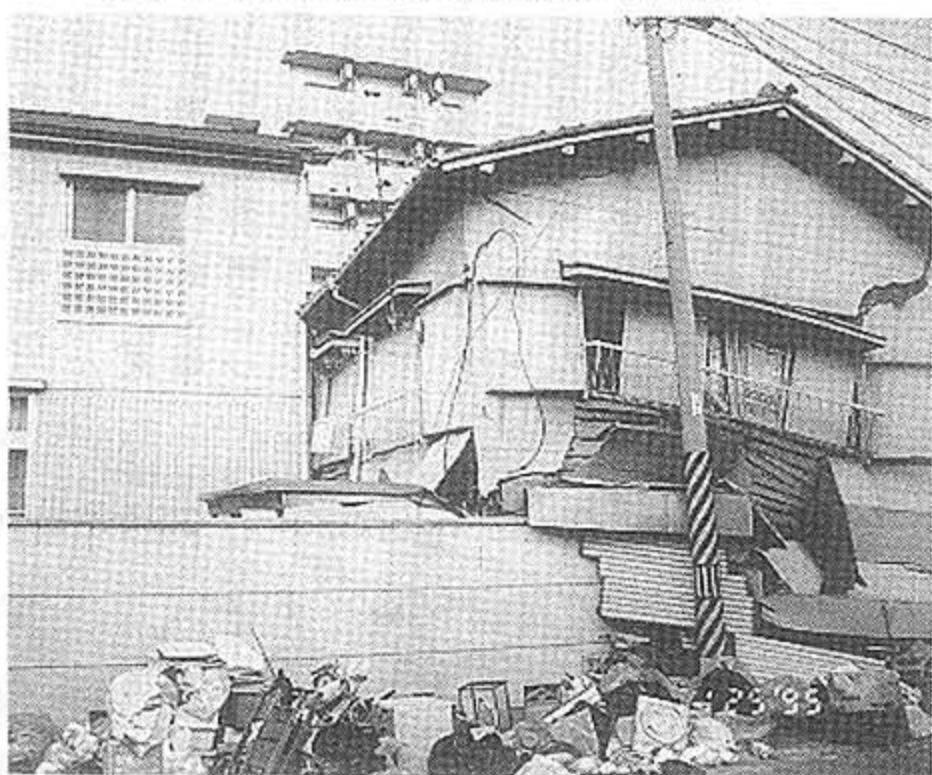
連日、泉尾教会からトラック部隊が救援物資を運んだ。



金光教六甲教会（神戸市灘区）は全ての建物が全壊、御祈念中だった沢田教会長も下敷きになったが幸い助かった



金光教常盤木教会の建物はゆがみ、神前は移動して、広前は救援物資配送の基地にされた



鉄筋造りの西宮教会は無傷だったが、隣の民家が崩壊、もたれかかっている

各教会でも様々な形で救援活動を行なっている。

難波教会（近藤世喜子教会長、大阪市浪速区難波中）は震災直後から炊き出しをしておにぎりを被災者に届けていた。二十六日には、西宮の公園で五百人分の温かい豚汁とおにぎりを接待した。

泉尾教会（三宅歳雄教会長、大阪市大正区）では、連日の救援活動を展開している。

同教会では信者や近隣住民から救援物資を収集。二十日からは、公安当局の特別通行

教会長の布教六十八周年の記念大祭が予定通り行なわれたが、今回震災にあった淡路島や兵庫県南部は泉尾教会の信者の多い地域。その中を船や電車を乗り継いで十時間以上かけて参拝した信者もあり、祭典では追悼の祈りが行なわれ、また緊急の救援決議集会が行なわれた。

報道されているように、今回の震災では政府の対応の遅れがそれだけ災禍を大きくし、また全国から大量に寄せられた支援物資の配布が、不

17391
広島銀行金光支店（普）600130
また、泉尾教会で募集している同震災への義援金の送金口座番号は、以下の通りである。

□座名「KCI兵庫県南部地震救援基金」

住友銀行大正区支店（普）434770
三和銀行大正橋支店（普）3714802
大阪銀行大正通支店（普）334414

住友銀行大正区支店(普)
434770
三和銀行大正橋支店(普)
3714802
大阪銀行大正通支店(普)
334414

迅速で大規模 救援活動を展開

海外のマスコミも賞讃

兵庫県南部地震から十日がたち、被災地では懸命の復旧活動が続けられている。創価学会（秋谷栄之助会長）では去る二十日、全国の学会員から寄せられた真心の義援金一億円を兵庫県に寄託したのに続き、二十五日には被災地への第二次義援金の寄託を決定。地震で甚大な被害を受けた神戸市に六千万円を贈ることになった。

義援金計二億三千二百万円を

県のほか六市二町に

兵庫県のほか、宝塚市に各一百万円、淡路島の北淡町、一方、全国の学会員からは膨大な数の救援物資が、今も創価学会の災害対策本部に次々と寄せられている。これらう、青年部を中心としたボランティア隊によって被災地に運び込まれた。

あるメンバーは語った。「真っ先にいちばん困った人のもとへ」——学会で教えられた精神を胸に、暗い夜道を一心不乱に走り続けました。

この「学会精神」は、これまで国内外で発生したすべての災害救援活動において、いかに早く被災者の手に届くよう、青年部を中心としたボランティア隊によって被災地に届けられた主な救援物資は次の通り（二十二日現在）。

飲料水二百万本（ペットボトル）、お茶一百万本（同）、おにぎり六十五万個、パン五



ヘリコプターやバイクも動員して被災地に続々と届けられた救援物資



続々届く救援物資

飲料水22万本をはじめ、医師がのべ二百六人、白樺会・グループの看護婦がのべ四百九十人に達した。救急医療班は兵庫県内の小・中学校等の避難所で訪問診療を行なっている。

十七日から二十二日まで医師のべ二百六人、看護婦のべ四百九十人、医療品二万五千ケースを投入した

大阪港から船積みされる救援物資



青年部数万人を中心に、壮年部婦人部も続々と救援活動に参加

兵庫県南部地震の被災地へ

四国霊場に被災者受け入れ 費用は豊山派が負担

◆真言宗豊山派◆

真言宗豊山派（吉田俊賢管長）では、兵庫県南部地震による被災者の救援のため、同派寺院がある高知県（橋本大二郎住持）、室戸市（西尾恒造住持）とタイアップして、兵庫県南部地震被災者救援（受け入れ）のための本部（本部）を設立した。

ある高知県、室戸市を通じて、兵庫県に緊急的措置として被災者の受け入れを申し出た。

二十三日、二十四日には田代弘興、梅見秀典宗会議員が東京から室戸市に飛んで、西尾室戸市長、坂井住職らと打ち合わせを行ない、被災者受け入れのための具体的な話し合いをして帰京、豊山派宗務所（島田信雄住持）、第二十五番札所津照寺（大西竜真住持）や、室戸市の国立室戸少年自然の家で、これまでに五百五十人の被災者を受け入れる態勢を整え、最終的には千人くらいまで受け入れたい意向である。

室戸市の四国霊場第二十六番札所金剛頂寺の坂井智宏住職が中心となり、通称、室戸豊山三山、と呼称される金剛頂寺、第二十四番札所最勝寺（島田信雄住持）、第二十五番札所津照寺（大西竜真住持）や、室戸市の国立室戸少年自然の家で、これまでに五百五十人の被災者を受け入れる態勢を整え、最終的には千人くらいまで受け入れたい意向である。

一億円を目標に募金進める

「お粗末」とドイツ紙 日本政府の救援対策批判

外電によると、二十四日付けのドイツ有力紙「フランクフルター・アルゲマイネ」は東京特派員の記事で、兵庫県南部地震における日本政府のお粗末な救援対策は正真正銘の「スキャンダル」と指摘し、「政治家と役人は国民を保護する義務の履行において、十七日の地震発生以来、連日無能ぶりを証明した」と手厳しく批判した。

創価学会の災害対策本部を務める秋谷会長は二十四日、坂口幾代婦人部長、谷川佳樹青年部長ら本部の幹部とともに被災地を訪れ、神戸市内を中心に兵庫、大阪の各地で被災者を全力で激励した。また同会長らは現地の災害対策本部の関係者と、今後の救援活動について協議した。